



横浜市議員  
竹内やすひろ

# 市政報告

ヒットエンドラン通信



## 文化芸術創造都市・横浜の実現 文化芸術の持つ力で選ばれる都市

文化芸術は、人の心を豊かにし、創造性と感性を育むとともに、創造的な活動の源泉ともなります。そして、時代や国境を越えた共感、人と人とを結びつけることにも繋がります。また、文化芸術は、その都市に多くの人をひきつける魅力や社会への影響力をもつ「ソフトパワー」として意識され、地域資源に新たな魅力を付加することも指摘されています。

横浜市では他都市に先駆けて、文化芸術の創造性を生かし、「文化芸術振興」や「経済振興」といったソフト施策と「まちづくり」などのハード施策を一体的に取り組む「文化芸術創造都市」=「クリエイティブシティ」の取り組みを進めてきました。

### 「横浜市文化芸術創造都市施策」の策定

文化芸術振興・創造都市の取り組みは、成長戦略の一つです。横浜市では、「文化芸術振興」と「創造都市施策」を一体的に促進し、さらなる相乗効果を発揮するため、文化芸術創造都市に関する今後の施策展開の基本的な考え方として、「横浜市文化芸術創造都市施策の基本的な考え方」を策定しています。

期間は平成24年から概ね10年とし、横浜が市民にとって誇れるまち、国内・海外からも「選ば

れる都市」として持続的に発展し、都市の活性化を図るため、市民、NPO、アーティスト・クリエイター、団体、企業と協働しながら、文化芸術の創造性を最大限に発揮する「文化芸術創造都市」づくりを目指しています。



この状況を脱し再び横浜の魅力を取り戻していくために「クリエイティブシティ」（創造都市）という考え方に着目、感動と新たな価値を生み出す「文化芸術」の「創造性」をまちづくりに生かすことで、「市民の活力を引き出す」「都市の新しい魅力をつくりだす」「産業を育む」ことを理念とする「創造都市施策」が生まれました。（創造都市 横浜／ヨコハマ創造都市センターより）

### 創造都市とは

1983年に着工したみなとみらい21地区が業務施設に加えて文化・アミューズメント施設や特色ある商業施設などの整備によって賑わっていく一方で、開港以来横浜の中心となっていた関内地区などは、開港の街であった歴史を今に伝える当時の西洋建築や近代建築などの歴史的な建物が少しずつ姿を消し、横浜らしい風景が薄れたり、オフィスビルの空室率も増えるなど、経済・文化の両面で活力が失われつつありました。

横浜市議員

竹内やすひろ (たけうちやすひろ)

神奈川県政務調査事務所

横浜市神奈川区大口通り127-16コスガビル1F

TEL : 045-716-6822 FAX : 045-716-6823

ホームページ <http://takeuchi.180r.com>

E-mail [mail@takeuchi.180r.com](mailto:mail@takeuchi.180r.com)



市民・文化観光・消防委員会  
大都市行財政制度特別委員会  
公明党神奈川県本部 幹事長代理  
公明党神奈川支部 支部長  
防災士

公式ホームページ

<http://takeuchi.180r.com>



竹内やすひろ  
facebook

# ヨコハマトリエナーレ2017の開催

〈トリエンナーレとは〉トリエンナーレとは、イタリア語で「3年に一度」という意味です。世界各地から美術家を集める招待展から、世界規模あるいは国内限定の公募展など形態も様々あります。

ヨコハマトリエナーレは、3年に1回行われる現代アートの国際的な展覧会で、これまで、国際的に活躍するアーティストの作品を展示するほか、新進のアーティストも広く紹介し、世界最新の現代アートの動向を提示してきました。2001年に第1回展が開催され、今回は第6回展の開催となります。横浜トリエンナーレは、「創造都市横浜」のリーディング・プロジェクトとして、会期中を中心に、国内外よりアーティストや関係者が横浜に集い、豊かな創造性を持つ市民や個性的な活動を展開しているNPOなどと連携して開催されてます。



## 島と星座とガラパゴス ～「接続性」と「孤立」から世界を考える～

企画のコンセプトと内容ということで、ヨコハマトリエナーレ2017の公式ホームページに、掲載をされていますので、ご覧いただきたいと思います。

その中で、タイトルの「島と星座とガラパゴス」について、またコンセプトの「接続性」と「孤立」から世界を考えることについてコ・ディレクターの三木あきこさんや同じく逢坂恵理子 横浜美術館館長が語られています。

三木あきこさんは、『ヨコハマトリエナーレ2017』では、「島と星座とガラパゴス」と

いうタイトルのもと、世界の「接続性」と「孤立」の状況について、アートを通じて様々な角度から考察します。そして、相反する概念や現象が複雑かつ流動的に絡み合う世界や、独自性・多様性の在り様について、さらには先行きの見えない時代に、人間の持つ勇気と想像・創造力が、未来に向けた新たなヴィジョンやグランド・デザインをどのように導き出し得るのか、思索を巡らせます』と語られています。(抜粋) 文化芸術の持つ魅力や力を、この機会を通して市民の多くの皆様に触れていただきたいと思います。

## 2020東京オリンピック・パラリンピックにむけた“文化プログラム”の推進

オリンピック・パラリンピックは「文化の祭典」でもあります。2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、地域性豊かで多様性に富み、レガシーの創出につながる文化プログラムを、全国で実施していくこととなります。国では昨年、2020年に向け、文化振興の機運を高め、文化による国づくりを一丸となって取り組んでいくことを宣言しました。(通称：京都宣言)

横浜市においても、2020年にもトリエンナーレも開催される都市でもあり、多様な文化の発信がされることが望まれます。

身近な文化を大切に、横浜が文化芸術で選

ばれる都市になること。そして何よりも、市民にとっての生きがいや誇りを深めることができる大切な期間として文化振興施策を進めていきたいと考えています。

